



新風とよあけ
とみなが秀一
政策研究会だより

エアコン導入時は日射、換気対策を

市の方針転換で全小中学校にエアコンを設置することになりましたが、それに向けては、日射や換気対策を考える必要があります。

小中学校へのエアコン設置について、市は、平成32年度までトイレの洋式化を優先し、その後の事は、それから検討するという方針でした。しかし、今年の猛暑、そして、小学1年の児童が、熱射病で亡くなる事態を受け、方針を転換。来年6月までに全小学校、2年後の6月までに全中学校の普通教室にエアコンを設置することとしました。

低コストで導入予定

以前、図書室一部のためにガスヒートポンプを設置するのは大きさを

そこで、9月議会の議案質疑や一般質問で、導入に向けて注意が必要と思われることなどについて聞きました。

換気に注意

エアコンを設置すると窓やドアを閉め切ることになり、教室内の二酸化炭素濃度が高くなります。

トがかかりすぎではないかという批判を頂きました。今回は各校数十〜百馬力以上必要でガスヒートポンプを検討しても良い規模ですが、コスト計算をすると、各教室にエアコンを設置した方が良いという結果になったとのことでした。どのよう

エアコンを設置すると窓やドアを閉め切ることになり、教室内の二酸化炭素濃度が高くなります。文科科学省の教室等の基準では、CO2濃度は1500ppm以下に保つていますが、閉めきっていると、7000ppmを超えることもあることが分かっています。

エアコンの日射対策を

テレビ番組で実験をしたこともあり、おむね、外気温が30度以上の時に車を日射が当たる場所に止めて窓を閉めていると車内温度は60度位になります。

CO2濃度が高いと眠気を感じたり、集中力が低下することもまた知られています。エアコンの中には、CO2センサーを内蔵し、濃度が高くなると熱交換をして室温への影響を抑えながら換気を並行して行う運転に切り替わり、濃度が下がれば換気を止めます。そこまでできなくても、換気しながら運転できるものは複数あるの

陰に止めることができれば40度位になります。この差は日射をどこで防ぐかによります。日よけは窓の内側ですから、表面で熱くなった空気は車内を熱します。しかし日陰は、外にある木などが日射を防いでいるので、車内には影響しません。教室も同様です。日よけを何もしなければ、日なたに止めた車のよう



豊田市の小学校に設置されているひさし

市内の32校にひさしを取り付けている、豊田市の小学校に夏休み中うかがったところ、教室は窓が閉まっています。上からの日差しが遮られているので、この時の外気温より少しだけ高い33

度ほどでした。ここは、設置されてから10年目ということですが、特に劣化した様子が見られませんでした。今回、当市では、熱中症にならない程度という

度ほどでした。ここは、設置されてから10年目ということですが、特に劣化した様子が見られませんでした。今回、当市では、熱中症にならない程度という

土砂災害危険個所の情報提供を

西日本豪雨では、土砂災害が発生する危険性が高く、建築物や住民に危害が及ぶおそれがある土砂災害警戒区域（イエローゾーン）や、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）だけでなく、警戒区域の指定には至らなかつた急傾斜地崩壊危険箇所でも、実際に土砂崩れなどが発生しています。

（答弁）市民生活部長「どこが急傾斜地崩壊危険箇所かを地域の防災訓練、防災講話、ホームページ、広報紙などで周知していきたい。」

（答弁）教育部長「業者と検討して考えていく」もし換気機能付きは非常に高いようであれば、普通なら1、2万円前後で購入できる熱交換式の換気扇の設置も検討する価値があると思われ

（答弁）教育部長「いすれにせよ、日射対策は検討していきたい」

防災に役立つコミュニティFM開設を



豪雨、暴風の最中はスピーカーの音は聞こえない

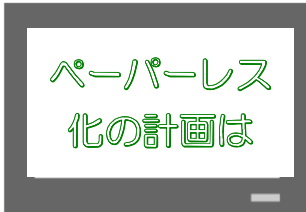
身近な所では、刈谷市、知立市などを放送エリアとするPitchoFMなどがあり、FMラジオで聴ける他、インターネット放送も同時にできるので、エリア外に対しタイププロモーションを行うことも可能です。

一般質問では他に3つ聞きました。災害発生前後において、正確で迅速な情報伝達は大変重要で、しかし、同報無線等を持たない当市の場合、Webやメール、広報車等、独自に広範に情報を伝達する手段は非常に限られています。防災・災害情報の発信のみならず、平時時は市民への情報発信などにも役立てられる、コミュニティFMの立ち上げを働きかけてはどうでしょうか。

放送のノウハウを持っていないケーブルテレビ局に、例えば、同じエリアの、日進市や東郷町などと一緒に働きかけてみてはいかがでしょうか。 (答弁) 行政経営部長「ケーブルテレビ事業者の事業展開を注視していきたい」 台風21号が近づいた高知や徳島、和歌山県、大阪府などのコミュニティFMをはじめとしながら聞きました。すると、どこか避難所には、何人避難していますとか、倒木で電線が切れていたのが発見されて、何時何分に停電が回復しましたとか、自治体や電力会社、交通機関などから出される防災情報、災害情報がきめ細かく流されていたのにも、ちろん、リスナーからもさまざまな情報が寄せられ、確認できた情報が流されて、双方向のメディアの利点が発揮されていました。 さらに、北海道胆振東部地震が起き、今度は北海道のコミュニティFMをはじめとして聞きましたが、停電でランタンの明かりの中放送しているところもありました。

この対応をしていますとか、この困難を一緒に乗り越えましょうと、市民に向けてメッセージを発したりしておられました。 同報系の防災行政無線を持たない市町村が無線を整備する場合、数億から数十億円かかるのと比べて、コミュニティFMは設立コストが数千円、維持コストが自治体の広報費としては年間数百万円と、10分の1から100分の1で済むというところで、地方自治体が第3セクターを設立して参入する例が多く見られます。 当市も防災無線更新時に、浸水の可能性がある地域を中心に、同報系の無線の整備も検討していると思いますが、よく聞くのが、豪雨、暴風の最中は、幾ら同報無線で流しても、屋外の場合には全然聞こえなかったという証言です。 FMラジオであれば、屋内で耳元でよく聞きとれま

すし、同報無線のかわり、あるいは補完することができるとも考えて、改めて整備する考えはありませんか。 (答弁) 市長「近隣市町と話し合い、低コストでできるのであれば取り組んでいきたい」



とよあけ ICT アクシオンプラン 2020 において、モバイル端末の活用項目で、無線ネットワークを構築し、事務室以外で、手元に持参したモバイル端末で資料を表示させ、業務の効率化、生産性の向上を図り、ペーパーレス化を進めるとしていますが、具体的にはどのような計画になっていますか。 (答弁) 行政経営部長「モバイル化で業務の効率化を図っている自治体を調査する。モバイル端末は、資料の印刷、配布の手間、特に差し替えなどの際の手間の軽減を図れることを考えると有効と考えている。来年度、庁舎のパソコンの入れ替えに際してはそうしたことも視野に検討する」 もう一つの質問では、各避難所に用意されている、水が3トン入る設置型仮設タンク(ウォーターバルーン)を活用し、1トン入る車載型は主に配水場からの運搬用に使うことで、できるだけ切れ目のない給水を行うことなどを確認しました。

決算特別委員会

平成29年度決算の審査の中から幾つか紹介します。 ●市役所出張所利用大幅減 市役所出張所を図書館から南部公民館に移す際、住民票や印鑑証明などの発行件数を全体の1割から2割へ、つまり7500件から15000件程度にすると、実績としては5600件と大幅に減少していることがわかりました。



LED化された図書館の照明

●水上太陽光発電事業 水上太陽光発電事業特別会計では、実質的な初年度の売電収入の予想およそ6060万円に対して、6656万円と、10%ほど多く収入を得られ、一般会計に対して、1606万円の繰出しができていました。

発行者:とみなが秀一政策研究会
〒470-1152
豊明市前後町仙人塚1752-27
Tel 0562-95-2005
ブログ
http://otomitv.seesaa.net/
※過去の会報、視察の詳細な報告書等もご覧になれます
Twitter ID otomi.tv
eメール eco@otomi.tv



企業交流水道赤沼部下流愛知自然